

1 全国学力・学習状況調査結果の概要

【小学校】

(1) 町の大まかな傾向

国や県とほぼ同様な傾向であり、平成25年度調査から、国語A・B、算数A・B全てにおいて、全国平均との差を縮めている。算数Aについては、昨年度に続き全国平均マイナス5ポイント以内にあり、取り組みの成果が安定して表れるようになりつつある。また、国語Bについても、全国平均マイナス5ポイント内に入り、国語A、算数Bについても伸びが見られている。

国語・算数共に、正答数分布グラフでは、昨年度に比べ高得点側（右側）に移ってきており、全般的に正答率が上がっている。また、全国平均より高い正答率の設問も複数見られ、なおかつ、全国平均との差が極端にある設問が減っている。特に、算数Aでは、全体的に伸びが認められ、平均正答率よりも低い得点における人数のピークがなくなり、全国平均よりも高い得点における割合が上がっている。

一方、複数の特定の設問において、課題がある状況である。結果をよく分析して、これらの課題を克服できるよう指導改善をはかる必要がある。国語・算数共に、B問題では、記述式の問題に課題がある。全体的には無解答率が下がっているが、これらの課題のある設問に対しては、無解答率が依然として高い状況にある。「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」（国語B）や、「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、記述できる」（算数B）といった力（いわゆるPISA型学力）を育む指導のいっそうの充実が必要である。

また、小学校ごとに、達成状況、課題状況に大きな違いが出てきており、町全体の傾向と学校ごとの課題が同一ではない。また、平成25年度調査からの変化についても、学校ごとにその変化量の大きさに違いが見られている。各学校ごとに課題を明らかにした上で、解決へ向けての取り組みが求められる。

(2) 国語A

漢字の読み書き、特に書きに課題がある。故事成語の意味と使い方に課題がある。「複数の事柄を並列の関係で書く」「話し合いの観点に基づいて情報を関係づける」に課題がある。

[25年度]

漢字の読み書きに課題がある。ことわざの意味や使い方、文の定義に課題がある。「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く」「読んで特徴を捉える」「表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する」に課題がある。

[21年度]

漢字を読むことは多くの児童ができている。漢字を書くことについては課題がある。「接続語を使って一文を二文に分けて書く」「毛筆の下書きについて大きさや配列に着目して書き直す内容を書く」「司会の進め方の良いところを説明する」に課題がある。

[20年度]

漢字を読むこと、説明文の要点を把握することは概ね良好である。漢字を書くこと、一文を二文に分けて書き換えること、効率よくメモをとることについては課題がある。

(3) 国語B

「質問の意図を捉える」「内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える」「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く」「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」に課題がある。記述式の問題に課題がある。

[25年度]

「相手の立場や状況を感じ取って聞く」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書く」「2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える」に課題がある。記述式の問題に課題がある。

[21年度]

「報告文に必要な事柄を整理したり、事象や意見などを関係付けながら書く」「自分の立場や意図を明確にして話し合うこと」に課題がある。記述式の設問の無解答率が高い。

[20年度]

登場人物の特徴・心情や場面についての描写をとらえること、文を要約したり書き換えたりすること、文章の書き方の良さや工夫に気づくこと、情報を読み取り事実・感想・意見などを区別して自分の考えを明確に書くことに関しては課題がある。

(4) 算数A

四則計算の設問の中で、異分母分数の加減法に課題がある。「割合」「単位量あたりの大きさ」「作図に用いられている図形の約束や性質」「二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと」に課題がある。

[25年度]

四則計算は多くの児童ができていますが一部課題がある。「四捨五入」「被除数を求める」「面積の単位」「合同」「展開図」「割合」に課題がある。「必要な情報を取り出して面積を求める」は課題克服が見られている。

[21年度]

整数、小数、分数の四則計算は、多くの児童ができています。それらを含めて、全体の3分の2程度の設問については、概ね良好な状況である。「数の四捨五入」「偶数の意味理解」「資料の分類整理から表化する」「百分率の計算」に課題がある。

[20年度]

四則計算、10進法、平行四辺形の面積については概ね良好である。加法と乗法を混合した整数の計算問題、分数の意味、分数と小数の大小関係、図形、百分率に課題がある。

(5) 算数B

「二人の説明を基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述する」「最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述する」「10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する」「示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する」「二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する」に課題がある。数学的な考え方を問われる問題や記述式問題に課題がある。

[25年度]

「安くなる買い方を選択し理由を記述する」「二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述する」「台形を分割したときに、4等分にはならないわけを選択する」「単位量あたりの大きさに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述する」「示された数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する」「比較量の大小を判断し理由を記述する」に課題がある。理由を説明する問題や記述式問題に課題がある。

[21年度]

「基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述する」「示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を図形の性質を基に記述する」などの記述式の設定に課題がある。また、記述式の設定の無解答率が高い。全体としては、昨年度までに比べ、課題状況の改善がうかがわれる。

[20年度]

グラフや表から情報を読み取ることは概ね良好である。与えられた条件を基に情報を選択し筋道を立てて考えること、また理由を具体的な数値を用いて自分の考えで説明することなど数学的な考え方に課題がある。

【中学校】

(1) 町の大まかな傾向

国や県とほぼ同様な傾向であり、平成25年度調査から、国語A、数学A・Bにおいて、全国平均との差を縮めている。特に、数学A・Bについては、大幅な伸びがあり、数学Aは全国平均をわずかではあるが上回った。また、国語A、数学Bについても、全国平均マイナス5ポイント以内にあり、取り組みの成果が表れている。

正答数分布グラフでは、国語A、数学A・Bでは、平均よりも高い点数でのピークが現れるようになった。数学A・Bでは、昨年度に比べ高得点側（右側）に移ってきており、全般的に正答率が上がっている。しかし国語Bについては、全体的に得点の低い側（左側）に推移した。

数学Aについては、総設問の半数が全国平均を超えており、全国平均+24ポイント、+10ポイントという設問もある。過去に正答率が低かった設問において大幅な伸びが見られるものもある。また、数学Bについても、総設問の四分の一が全国平均を超えており、図形の性質を構想を立てて証明する記述式の問題において全国平均を超える正答率を挙げている。

一方、国語Bにおいては、すべての設問において、全国平均との差が-4から-12ポイントにあり、国語科における、読み取る・捉える・理解する、考える、考えを書くということについての課題がある。同様に、数学Bにおいても、解釈して説明する国語的な要素を含んだ設問に課題が挙げられる。共通の課題として、「的確に捉え理由を説明する」「事象を自分の力で読みひらき、自分の考えを持ちながら、それらを適切に表現する」といった力（いわゆるPISA型学力）を育む指導のいっそうの充実が必要である。

また、小学校同様、中学校ごとに、達成状況、課題状況に大きな違いが出てきており、町全体の傾向と学校ごとの課題が同一ではない。また、平成25年度調査からの変化についても、学校ごとにその変化量の大きさに違いが見られている。各学校ごとに課題を明らかにした上で、解決へ向けての取り組みが求められる。

(2) 国語A

漢字の読み書きの特定の設問に課題がある。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の特定の設問に課題がある。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことに課題がある。「多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる」ことに課題がある。

[25年度]

漢字の読みは概ね良好であるが特定の設問に課題がある。漢字の書きについては課題がある。言語文化等（古典）の学習に課題がある。「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす」「文章を目的に応じた表現に直し、伝えたい事柄を明確に書く」に課題がある。「語句の意味

を理解し、文脈の中で適切に使う」について概ね良好であり課題克服が見られている。

[21年度]

漢字を読む能力は、良好な状況である。言語事項の領域の中で、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」に課題がある。読むことの領域の中で、「短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと」に課題がある。

[20年度]

話し合いの司会としての適切な発言、効果的なインタビューの仕方、文脈に即して漢字を正しく読むこと、文脈の中で語句を適切に使うことなどは良好である。論理展開に即して説明文の記述の内容を読み取ることや、文脈に即して漢字を正しく書くこと、辞書を活用して漢字・慣用句の意味を適切にとらえたり書いたりすることに課題がある。

(3) 国語B

「表現の技法について理解する」ことに課題がある。「複数の資料から必要な情報を読み取る」「本や文章から目的に応じて必要な情報を読み取る」ことに課題がある。「根拠を明確にして自分の考えを書く」などの記述式の問題に課題がある。

[25年度]

「図と文章の関係を捉える」「文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書く」「漢字の特徴を捉えて自分の考えを具体的に書く」に課題がある。自分の考えを説明したり、分かりやすく伝えるように書いたりする記述式の問題に課題がある。

[21年度]

「資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる」「詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連づけて自分の考えを書く」に課題がある。基本的事項の習得を重視しつつ、それらを活用する力の育成が求められる。

[20年度]

文章の内容を正確にとらえること、文学作品の登場人物の人間関係や心情をとらえることなどは概ね良好である。資料の中から必要な情報を選び、伝えたい事柄を明確に書くこと、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと、自分の立場を明確にして意見を書くことなどに課題がある。

(4) 数学A

「数と式」の中で、分数の除法に課題がある。

[25年度]

「数と式」に関して概ね良好であるが、「正の数と負の数」「文字式」の特定の設問に課題がある。「空間における2直線の位置関係」「多角形の外角の意味」「関数の意味」「反比例のグラフ」「ヒストグラムから相対度数を求める」「確率」に課題がある。

[21年度]

数と式、図形の領域での知識・理解、表現・処理については、概ね良好であるが、1年生で学習した内容について、課題がある。新学習指導要領でも強調されているスパイラルな指導が必要とされよう。数量関係（関数等）の領域に、課題がある。

[20年度]

正の数と負の数の計算、方程式の解き方と利用などは良好である。文字式の意味を具体的な事象の中で読み取ること、関数の式を求めること、点対称な図形を完成することや三角形の合同条件・平行四辺形の条件・反比例の意味・確率の理解などに課題がある。

(5) 数学B

「数量の関係を数学的に説明する」ことに課題がある。「樹形図を利用して、与えられた情報を分類整理する」ことに課題がある。「問題を解決する方法を説明する」という記述式の設問に課題がある。

[25年度]

「与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理する」「問題場面における考察の対象を明確に捉える」に課題がある。また、「事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する」「資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明する」「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する」の記述式の問題に課題がある。

[21年度]

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」「事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する」などの「説明問題」に課題がある。また、これらの設問については、無解答率も高い。今後、数学的な活動を軸にして、数学的な読解力、表現力を伸ばしていく必要がある。

[20年度]

与えられた情報を的確に処理すること、問題場面における考察対象を明確にとらえることは良好である。数学的な表現を用いて説明すること、事柄が成立することを方針にもとづいて説明したり証明したりすること、事象を数学的な意味で考え、解釈したり説明することなどに課題がある。